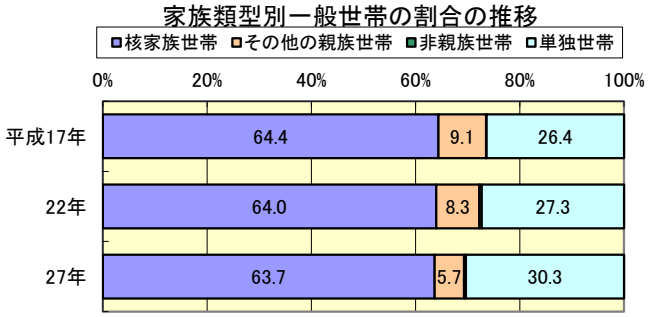
世帯の家族類型

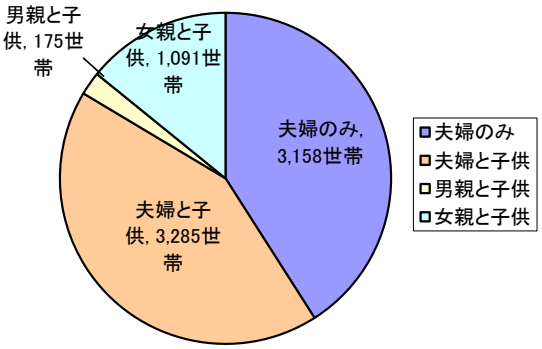
・核家族世帯は全体の7割弱、ゆるやかな減少傾向。
・『夫婦のみ』の世帯、『単独世帯』は増加傾向。

・平成22年調査に比べ1,862人、率にして6.0%の減である。

家族類型別一般世帯の割合の推移



核家族世帯(7,709世帯)の内訳



家族類型別一般世帯数の推移

世帯の家族類型	一般世帯数			割合(%)			対前回増減率(%)	
	平成17年	22年	27年	平成17年	22年	27年	22年	27年
総数	12,640	12,270	12,111	100.0	100.0	100.0	△ 2.9	△ 1.3
親族のみの世帯	9,294	8,862	8,395	73.5	72.2	69.3	△ 4.6	△ 5.3
核家族世帯	8,142	7,848	7,709	64.4	64.0	63.7	△ 3.6	△ 1.8
夫婦のみ	3,113	3,147	3,158	24.6	25.6	26.1	1.1	0.3
夫婦と子供	3,805	3,504	3,285	30.1	28.6	27.1	△ 7.9	△ 6.3
男親と子供	155	167	175	1.2	1.4	1.4	7.7	4.8
女親と子供	1,069	1,030	1,091	8.5	8.4	9.0	△ 3.6	5.9
その他の親族世	1,152	1,014	686	9.1	8.3	5.7	△ 12.0	△ 32.3
夫婦と親	195	187	141	1.5	1.5	1.2	△ 4.1	△ 24.6
夫婦、子供と親	456	350	190	3.6	2.9	1.6	△ 23.2	△ 45.7
その他	501	477	355	4.0	3.9	2.9	△ 4.8	△ 25.6
非親族を含む世帯	14	57	43	0.1	0.5	0.4	307.1	△ 24.6
単独世帯	3,332	3,351	3,673	26.4	27.3	30.3	0.6	9.6
(再掲)								
3世代世帯	748	640	387	5.9	5.2	3.2	△ 14.4	△ 39.5

※総数には、世帯の家族類型「不詳」は含まない。

[用語の解説] 世帯の家族類型
一般世帯を，その世帯員の世帯主との続き柄により，次のとおり区分した。
親族のみの世帯－二人以上の世帯員から成る世帯のうち，世帯主と親族関係にある世帯員のいる世帯。 なお，平成17年まではその世帯に同居する非親族(住み込みの従業員，家事手伝いなど)がいる場合もこれに含まれる。例えば「夫婦のみの世帯」という場合には，夫婦二人のみの世帯のほか，夫婦と住み込みの家事手伝いから成る世帯も含まれている。
非親族を含む世帯－二人以上の世帯員から成る世帯のうち，世帯主と親族関係にある者がいない世帯。
単独世帯－世帯人員が一人の世帯。
3世代世帯－世帯主との続き柄が，祖父母，世帯主の父母(又は世帯主の配偶者の父母)，世帯主(又は世帯主の配偶者)，子(又は子の配偶者)及び孫の直系世代のうち，3つ以上の世代が同居していることが判定可能な世帯をいい，それ以外の世帯員がいるか否かは問わない。したがって，4世代以上が住んでいる場合も含まれる。また，世帯主の父母，世帯主，孫のように，子(中間の世代)がいない場合も含まれる。一方，叔父，世帯主，子のように，傍系の3世代世帯は含まれない。